

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400066		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム月の里		
所在地	千葉県千葉市若葉区中田町1103-1		
自己評価作成日	令和5年2月	評価結果市町村受理日	令和5年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年4月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム月の里は、静かな環境に恵まれています。周囲には竹林や田畑が広がり、夜には満天の星空を眺められます。良い空気を胸にいっぱい吸い込み、健康で和気あいあいとした雰囲気大切にケアを提供。体調の変化にも注意を払い医療機関との手厚い連携に取り組んでおります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が「安心して暮らす。のんびりして暮らす。」ことを大切にしている。利用者とは話をすることを心がけ、日々の生活を通して思いや意向を聞き取っている。介護計画では利用者の意向欄に「今のままで特にない。余は満足じゃ。」など利用者の言葉をそのまま記載している。モニタリングは毎月おこなっており、支援の実施状況や目標達成状況などを確認し、介護計画の見直しにつなげている。食事は旬の食材を使用して、季節感を大切にしており、昼食はうどんやそば、パスタ等の麺類や、サンドウィッチなど多彩な献立を提供して、食事が楽しい時間となるよう工夫している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各棟に掲示しており、施設長を中心に職員と常に運営上の方針や目標などを話し合っている。	理念はホーム内に掲示しており、朝礼や全体会議などでも確認している。利用者が「安心して、のんびりして暮らす」ことを大切にしており、利用者のペースに合わせた声かけを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事は令和4年8月に夏祭りを実施。各棟ごとに輪投げ・ラムネ・パン食い等昔懐かしい催しなど。消防訓練はコロナ禍の為、令和4年4月・10月は動画・リーフレットにて実施しました。	コロナ禍前は利用者の散歩時に、近隣住民と積極的に交流の機会を持っていた。また、地域の祭りへの参加や、消防訓練では地域住民にも参加してもらっていた。コロナ禍においては、散歩時の交流や消防訓練参加の呼びかけなどは、おこなっていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サービス内容や行政の施策などの報告を行ってきたが、ここ3年はコロナ禍で中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に続き、コロナ感染予防の観点から中止している。8月にあんしんケアセンターの窓口に挨拶。民生委員・宮田自治会へ出向き、挨拶をしました。	開催時には、町内会代表、地域包括支援センター、利用者代表などが参加し、ホームの状況などを報告していた。一人歩きの高齢者を見かけた場合は、ホームに連絡してもらうことや、ホームの防災訓練への参加なども依頼をしている。	コロナ禍においても、書面での開催が望まれる。ホームの状況などの報告を含め、会議の議題について、参加者から意見をもらうなど、双方向での会議の開催を検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に電話でのやり取りが主流となっています。必要に応じ、助言等を頂きながら手続き代行や入院時の対応を相談・連絡している。	市町村の担当者とは連絡を密に取り、協力関係を築くようになっている。また、利用者に関する事務手続きなどについて、担当者に相談したり助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍で研修は難しい中、身体拘束廃止研修に参加しました。職員は毎日常に意識している。マニュアルなどによる拘束をしないケアを行っている。	「身体的拘束適正化のための指針」を整備し、声かけや対応など、拘束につながらないような支援に取り組んでいる。職員には「介護の心得など」を配布しており、気になるケアがあった場合は、事例をもとに、職員全員に注意喚起している。	身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束廃止に向けた職員の意識付けを図る取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル・意見交換により、スタッフ全体が意識を高め、日常的に注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為、外部への研修はできていない。今後コロナが落ち着き次第、研修に参加し意識をつけるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等の説明に時間をかけている。利用者様やご家族様に理解していただき、不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見の反映については、コロナ禍において面会制限(窓越し)を実施しており、充分とは言えない状況にあり、入居者様の状態変化等は電話にて報告し、意見を聞いている。	利用者との会話を大切にしており、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族とはコロナ禍においては面会制限があるため、電話で意見などを聞き取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で意見の交換を行っている。運営に関する職員の意見を、管理者を交えて話し合う機会を設けている。	全体会議や毎日の朝礼などで、意見を聞く機会を設けている。また、休憩時間に意見や提案などを聞くこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常に職員の勤務状況を把握し、可能な限り休日の希望を聞き、働きやすい環境になるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意分野・相性を把握し指導。コロナ禍で研修を受ける機会がなく、繰り返し見直し身につけるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在交流する機会そのものがない状態にある。系列関係にある施設間では、主に電話・FAXで密な連携に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を取り除く為、極力声掛けをしている。「やさしい心」「人を敬う心」言葉や要望に傾聴し、安心した生活が築けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係を理解し、本人と家族の絆を十分築けるように本人の意向を把握した上、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの話をよく聞き、何が利用者の為になるかを考えて、援助するようにしています。希望に添える様、健康面や家族の要望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日楽しく過ごせる支援を提供。喜怒哀楽を共にして支え合う、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気楽に話せる雰囲気を作っている。家族との関係を理解し、本人と家族との絆を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方の手紙や電話の取次ぎは手伝う支援をしている。友人から連絡があれば伝え、面会の機会に繋がるよう支援している。	コロナ禍前は、知人などの面会もあったが、現在は基本家族に限定しており、窓越しとしている。知人が面会を希望する場合には、日にちと時間を約束して、窓越しで短時間可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のラジオ体操・レクリエーション・行事ごとなど交流を図り、職員・入居者同士孤立せず、助け合って交流しあえるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為、入院された場合は面会に行けず、病院側から入院状況連絡があり、ご家族に連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	感情や意思の表出しが困難な方には、言動を詳細に観察し、導き出すよう寄り添っている。生活歴など参考に一人一人の要望に傾聴している。	利用者との会話を大切にしており、日々の生活を通して、思いや意向を聞き取っている。喫煙習慣のある利用者には、入居後も煙草の本数を決め、指定場所で喫煙してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞くだけでなく、ご家族やこれまでのサービス提供者からも、情報収集するよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や心身の状況を観察し、小さな変化にも気付けるよう、心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	病状や日常生活の様子を話し合い、医師の指導を受け作成している。家族とは交流のない入居者様がほとんどである。	利用者の意向を基に、職員の意見を踏まえて介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施しており、日々の記録や職員の意見などを参考に、計画の見直しに反映させている。職員は介護計画に即した介護内容の要約を確認しながら支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のモニタリングや変化があった時には話し合い、申し送り帳や口頭にて意思統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症共同生活介護施設であり、サービスはホーム内の基準に従って行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方の協力をいただきながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を導入している。異常時には速やかな対応ができるよう、医師や病院との連携が速やかにいくよう、情報提供や相談をしている。	利用者は月2回、協力医に受診しており、以前からのかかりつけ医の受診についても支援している。利用者の状況によっては、協力医に主治医を変更してもらう場合もある。必要時には協力医と連絡が取れる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に、心身の状況や対応について、医師や看護師から情報提供・指導を受けている。インターネットからの情報も参考にして学んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の送迎、病院との情報交換を密にし、家族・病院と連携をとり、緊急時の協力体制の充実を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族がいる方や本人が意思表示可能であれば、口頭にて説明している。医療機関と連携がとれており、指導を受けている。	ホームでは看取りはおこなっておらず、入居時に重度化や終末期に向けた対応について、口頭で説明している。著しい体力低下や食事摂取が困難になってきた段階で、再度意向を確認している。	重度化や終末期対応については、利用者、家族、職員に正しく理解してもらうためにも、対応指針の作成が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生の対応は、施設長に連絡するとともに、緊急時のマニュアルに従い対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、職員が避難誘導等ができるようにしている。コロナが明けたら、消防署の方からの指導を再開したいと考えている。	避難訓練は年2回実施している。訓練では通報、誘導などの流れを確認している。夜間を想定した訓練も実施している。地域とは、災害時の避難場所の提供や、非常時に必要な物品などについて、相互に協力できる体制がある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、本人の個性・人格・プライドの尊重を重視して、声掛けや介助・介護の支援を行っている。	指示、威圧的な口調での声かけをしないように心がけている。利用者ごとの声かけや対応の留意点は、介護計画にも記載しており、職員で共有して対応している。入室時には必ずノックや声かけをするなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日々利用者様とコミュニケーションを取り、思いや希望が表現しやすい雰囲気にも努めている。本人の持てる能力を活かして自己決定を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気作りをし、無理強いせず一人一人のペースを大切にし、希望に沿って支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた時は着替え、季節の変わり目に衣替えの支援を行い、常に清潔感のある洋服や身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや体調や状況に合わせて、調理法を変えたり、旬の食材を使い季節感を感じていただけるよう、支援している。	利用者との会話や残食の状況を把握して、献立を考えている。また、旬の食材を使用するなど、季節感を大切にしている。利用者の状態や体調などを考慮した食事形態で提供しており、食事を無理なく取れるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態の観察把握に努め、水分量の摂取方法などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	指導を受けて、毎食後個々の状態に配慮し、口腔ケアを実施している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間の誘導とパット・オムツ交換は、個々の行動に合わせた誘導を心掛けている。	利用者個別の排泄リズムを把握し、声かけ、誘導、見守りなどをおこなっている。利用者によっては、夜間も誘導するなど臨機応変に対応しながら、自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛けて、毎朝のラジオ体操や運動、主治医に相談・指導で下剤服用・座薬など便秘解消の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の全身状態や意向を重視して、無理強いをせず希望に沿って入浴支援を行っている。	入浴は職員のシフトの状況に応じて対応しているが、利用者とは会話をしながら、ゆっくりとした時間が過ごせるよう支援している。入浴日以外でも、発汗やよごれがある場合は衣類交換などをおこない、清潔保持に配慮している。	不定期ではなく、定期的に入浴ができるような取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや健康状態を把握し、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期往診・外来受診で処方された薬は、先生に説明を受け処方箋をセッティング		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や誕生日会、夏祭りを実施。毎日のラジオ体操、レクリエーションや合唱やビンゴゲームを提供し、楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、風のない天気の日、短時間・近隣の散歩など支援している。	天候が良ければ近隣に散歩に出かけ、季節を感じるようにしている。コロナ禍前には、図書館やスーパーマーケットへの買い物、ドライブなどに行っていた。状況が落ち着けば、利用者からの要望が多い買い物に出かけることを検討している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の認識や希望を伝える能力が乏しい方は、職員が援助している。生活保護の方は行政と連絡を取り合って対応している。コロナの影響もあり、買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があれば対応している。家族からの電話の取次ぎ、手紙の郵送の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の壁飾りや季節の花を飾り、季節感を取り入れている。リビングから見える台所から食事の準備中も、美味しそうなおいが漂っている。	リビングでは会話を楽しめるような雰囲気を作るように心がけている。壁には、利用者と一緒に作った折り紙や季節の飾りを掲示している。室温は利用者の体感温度にも考慮して、快適に過ごせるように調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに集まり、ラジオ体操やレクリエーションを行い、歌を合唱したり、リビングのソファでテレビを観て過ごされたり、居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、馴染みの物を置いて頂き、住み慣れた雰囲気づくりを工夫している。事故の無いよう、つまずきや転倒の原因にならないよう心がけている。	利用者はタンスや衣類ケース、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んでいる。居室内の整理整頓を心がけ、家具の配置に配慮して、安全に暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないよう、個々の居室に表札をつけている。トイレなどの共有スペースにも表示している。混乱した様子の方には声掛けし、誘導・援助を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと